



平安

あったかハートで Hey!安心!!

3月号

「さようなら」に込められた意味

学校長 中村 浩子

一年の中でも特に月日の流れを早く感じる季節になり、「一月往ぬる二月逃げる三月去る」という言葉の通り、新年を迎えてからあっという間に3月となり、いよいよ今年度のまとめとなる3月を迎えます。3月は「別れの月」でもあります。6年生は卒業しそれぞれの中学校へ進学し、1~5年生も今のクラスの仲間や担任と別れ進級し、教職員の異動もあります。この別れの時に、私たちはなぜ「さようなら」と言うのでしょうか。

世界の別れるときに使う言葉には、主に、『神に願う意味をもったもの;英語の Good bye.』『再会を願う意味をもったもの;中国語の「再見」』『健康を願う意味をもったもの;英語の Farewell』の3つに分類されるそうです。しかし、日本の「さようなら」はこの分類には当てはまりません。「さようなら」という言葉は、もともと「さようならば」の変化した言葉で、「さようならば」「そういうことならば」を意味する接続詞になるそうです。接続詞を別れの言葉とするのは、世界の言語の中では非常に珍しいようです。

「さようなら」は「今まではこうだったのだから、そうであるならば、この先はこうしよう。」という意味を込めて、使っていたようです。「さようなら」の前後には、それぞれ使う人によって意味が込められているので、例えば、学校で子どもたちに声をかけている「さようなら」の意味は、「今日も一日楽しく過ごせましたね。そうであるならば、明日もまた、元気に来てください。」となるということです。

3月17日(金)には、6年生137名が平安小学校から羽ばたいていきます。卒業生には、「今まで、平安小学校で様々な学習や体験を通して努力してきたのだから、これから先、中学生になってもきっと大丈夫!明るい未来が待っているはずです。」という願いを込めて、「さようなら」と言いたいと思います。

6年生だけではなく、1~5年生も、すべての子どもたちの成長には、一人ひとりのがんばりと努力が、そして、それを支えてくださったたくさんの人の励ましがあったことと思います。子どもたちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々へ厚くお礼申し上げます。どの学年の子どもたちも一年間の総まとめに取り組んでいます。進学・進級への大切な残りの日々、変わらぬご協力・ご支援をよろしく願いいたします。